



「あたたかい雰囲気のある学校をつくるために

平成24年度 第2回高知市立学校教頭研修会
平成24年12月7日(金)実施

～自尊感情を高め合い、まとまりのあるクラスづくり～

講師 プール学院大学 松久 眞実 専任講師

集団づくりの大切さ

クラスには、発達障害のある子どもなど支援の必要な子どもが混在している。安全でいじめや暴力のないクラスでないと、支援の必要な子どもは安心して過ごせない。

秩序のあるクラス・安心して過ごせる好意に満ちたクラスは、支援の必要な子どもにとっては最大の支援である。

発達障害の「二次障害」とは・・・

発達障害があり(一次障害)、それゆえに不適切な養育環境や周りとのかかわりで問題行動が起きる。

○ ADHD(注意欠陥多動性障害)

多動性、衝動性、不注意→叱責される、疎外される→自尊感情が低下→怒りが暴言・暴力として表出。非行・反社会的な行為につながる場合もある。

○ 広汎性発達障害(自閉症スペクトラム障害)

社会性の障害、言語コミュニケーションの障害、想像力の障害→対人関係につまずく、パニックになってトラブルを起こす→疎外されいじめの対象に→不登校、うつ、精神的な症状に。ひきこもりなどの、非社会的行動につながる場合もある。

二次障害を防ぎ、自尊感情を高めるために「クラスをあたためる取り組み」の一例

○「ぴかぴー」

いい行いをしたら、先生がほめながらビンにビー玉を入れる。(時には、大きいビー玉“でかビー”も登場させる)
ビンがぴかぴーで満杯になったら、クラス全体で楽しいことをする。(席替えをする、宿題を減らす、係り活動を変更するなど)



コツがよい！

積極的にお手伝いをするなどよい行動がどんどん増える。支援の必要な子どもたちも周りの友達から受け止めてもらえることが多くなってイライラすることが減少し、クラス全体が落ち着いてくる。

「あたたかクラス作戦」で、発達障害のある子どもをつむクラスづくりを

- 効率よく大きな効果があがる取り組みから始める
- 授業にくいこまない取り組み(授業時間を削らない)
- どの児童生徒にもあてはまる最大公約数的な取り組み

松久先生の基準はこれ！

☆ 叱り方のコツ・極意

- ① 事実と思いを分ける
「ノートを取らない」のは事実、「やる気がない」のは思い込み
- ② 叱る基準を変えない
- ③ 毅然とあっさり(感情的に叱らない)
発達障害のある子どもは焦点化しづらいので、しつこく怒られると何が大切で、何が大切でないのか分からなくなる。
- ④ 見通しを持って、迷いなくきっぱりと言い切る
※「理由+望ましい行動」で
(例)「おかずをこぼすとやけどするから、ゆっくり歩こうね。」
- ⑤ 最後の結論は自分で選択させる
(例)「忘れ物をしないために、メモをするか、友達に電話して聞か、どっちがいい？」
- ⑥ 「アドバイス」「リクエスト」で叱る
(例)「今からアドバイスを言うんだけど」「1つリクエストしてもいい？」
- ⑦ 「だから」という接続詞でつなぐ(否定語を避ける)
発達障害のある子どもは「ダメ」「やめなさい」などの否定語で指示されるのは苦手。(例)「宿題したくない。」「うん、だからね、宿題したら賢くなるんだよ。」

叱り方の3段階 「森レベル・林レベル・木レベル」

森レベル：人の心と体を傷つけた時に震え上がるほど厳しく叱る

林レベル：できることをしない時にわりと厳しく叱る

木レベル：忘れ物や給食を残したなどの時にそれなりに注意する

★ポイント★ 年度始めに基準を提示する。1年間変えない。

※ 見通しがないと不安になる発達障害のある子どもにとって、叱る基準がぶれないことは大切な支援になる。

尊敬される教師・信頼される教師に

- ・ 全体指導は厳しいが、筋が通っている。
- ・ 1対1の関係ではうっとりするくらい好意に満ちた語りかけをする。
- ・ 子どもを信じる。言い訳を聞く。
- ・ 責めない。疑わない。皮肉を言わない。



安全で秩序あるクラスにするには、**叱り方、誉め方をマスターする**のが近道です！

<受講者から>

- ・ 例をあげながら、具体的な実践をお話いただいたので大変参考になった。ADHDの子どもや広汎性発達障害の子どもの特性をその場面場面を想定して説明してくださったので、特性の理解も深まった。例えば、「ほめる」と言われてもどうすればいいのか、どう伝えればいいのかと悩む場面もあったが、今日のお話の中にたくさんヒントがあり、早速教職員に伝えたいと思った。
- ・ 実際に様々なタイプの子どもの子どもたちとかわる中で、どのようなかわりをすればいいのか悩む場面もあり、そういった点でも大変ありがたかった。「好意に満ちた語りかけ」というのはかなり忍耐(?)の必要なことだと思うが、今日具体的に示していただいたことを自分自身が実践するとともに、教職員にも伝えたいと思った。



「**接遇とは何か。マナーとは何か。あなたは知っていますか。**」



第3回 高知市教育研究所学習会 ～ビジネスマナー研修～

目的：基本的なビジネスマナーを身につけ、市民・保護者、外部講師及び教職員等への適切な好感のもてる対応を行うことができるようになる。

日時：平成25年1月9日(水) 14:00～17:00

場所：アスパルこうち 4階ホール

講師：筒井 典子 代表（人・みらい研究所）



☆ あいさつの重要性



あいさつは、日頃からの心がけ

おじぎをしながらのあいさつはNG
おじぎの目安は6秒間

☆ 印象の良い電話対応



電話に出たらあなたは職場の代表

かかってきた電話は、相手がコストを支払ってかけている（内容は簡潔に）
電話を切るところまで細心の気配りを

受講者の感想より(抜粋)

・ 電話口では相手に自分の姿は見えないけれど、目の前にいるかのように笑顔で対応することの大切さを学んだ。

☆ 身だしなみで決まる

『信頼していただく第一歩』

身だしなみのポイント

- ① 清潔感
- ② 品格
- ③ 公的な場での配慮



身だしなみは100点が当たり前
頭からつま先まで、常に気を配る

人は第一印象(見た目)で相手の9割をイメージづけられている。

受講者の感想より(抜粋)

- ・ いろいろな方との出会いがあるので、第一印象は大切だと感じた。表情や態度、言葉がけ、どれ1つをとっても、気をつけなければならないと思った。
- ・ 身だしなみのポイントである「品格」や、日頃からのあいさつなど、普段から少しずつ意識していくことが大切だということを実感した。

☆ 来客への対応



笑顔をお忘れなく

名刺はお客様の身代り
両手で丁寧に受け取る

こちらに置いてよろしいでしょうか。

両手でお客様の邪魔にならない方向からお茶を出す
茶托から手を離す時は両手を同時に、静かに



原則右側からお茶を出す

「**接遇とは、人と接するときの遇し方。おもてなしの心**」
「**マナーとは、相手への思いやりの表現方法**」

↓
【**組織を守ることに通ずる、社会の安定のために行うもの**】